

協力隊通信

2021
Vol.5 10月



夏休み子ども教室での座学のように。
みんな真剣にきいてくれました。

8月23日、上北山村教育委員会主催の「夏休み子ども教室(上北山児童クラブ)」のプログラムのひとつとして、「爬虫類・両生類生き物観察教室」を開催させていただきました。その時の様子を紹介いたします。

午前中の座学では爬虫類・両生類が大きくどのようなグループに分けられているかや、その特徴、ヘビとトカゲの見分け方、世界にそれぞれ何種くらいいるかなどを、クイズを交えて説明し、その多くが絶滅の危機に瀕していることを知ってもらいま

した。

分類に関しては、近年、鳥とワニが近いことから、いわゆる「鳥」を「爬虫類(爬虫綱)」の中の「鳥下綱」とする考え方もありますが、異論も多く、鳥は除きました。恐竜の一部から鳥が進化したことを考えると、ワニと近いというのも納得できますね。

ちなみに、ヘビとトカゲの見分け方ですが、足のあるヘビはいませんが、足のないトカゲがいるため、足の有無ではなく、「足がある、まぶたがある、耳の穴がある」どれかひとつでも当てはまればトカゲになります。トカゲやヘビを見かけたら観察してみてください。

それぞれのグループに何種類いるかのクイズでは、みなとても勘がよく、たくさん正解していました。ここで、その時の問題をひとつ。世界にトカゲは約何種類いるでしょうか? ㉞250種、㉟7100種、㊱23500種。正解は最後に。

そのあと、日本にどれくらいの種がいるのかを紹介し、午後



生き物を探しながら下ります。
何が見られるでしょうか。

の野外観察のための事前知識として上北山村に生息する、もしくはその可能性がある種を写真や鳴き声を使って紹介しました。

午後は、野外観察ということで、西山観音まで車で上がり、生き物を探しながら下りてきました。

この時期はさすがにヤマビルが多く、昼食の間に靴に付いたりしましたが、血を吸われるのだけは免れ、ひと安心でした。



観察中は、数は少なかつたものの、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ニホンマムシを見ることのできました。
 最後は、教室に戻り、事前に捕獲しておいた爬虫類・両生類や、シマヘビの卵に実際にふれてもらいました。みんな怖がるかと思いましたが、興味津々で、触感

みんなマムシを怖がらずに触っていました。
 (安全には細心の注意を払っています)



カエルやヤモリの素敵な絵を描いてくれました。



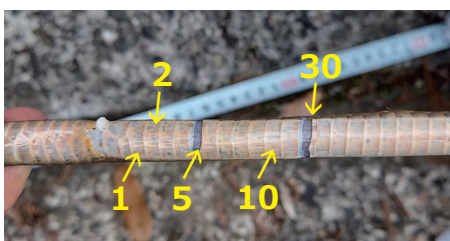
記念撮影。中東先生と協力隊の土居くんに一日写真撮影をしていただきました。

を確かめたり、首に巻いて重さを実感したりしていました。都合により野外観察に行けなかった子どもたちは、教室でカエルやヤモリの絵を描いてくれましたが、どれも想像力豊かで感心しました。

最後に。今回の「爬虫類・両生類生き物観察教室」が、子どもたちへの環境教育に少しでも貢献できたのなら嬉しい限りです。そして、上北山村教育委員会をはじめ多くの方々のご協力により実施することができました。と、心より感謝いたします。また、参加していただいたご家族の皆様も、誠にありがとうございました。



みんな興味津々で触ったり、首に巻いていました。
 ちなみに、カナヘビは、唐揚げの触感だそうです。



前回のクイズの答え . A. 35 番

1, 2, 3, ..., 9 と一の位、次が 10, 20, 30, と十の位、次が 100, 200, 300, と百の位と数え、写真の場合 35 番になります。

前ページの答えは、①で約 7,100 種が知られています。